

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

朝鮮労働党創建70年慶祝閱兵式と平壤市民パレード開催

2015年10月10日発『朝鮮中央通信』によれば、同日、朝鮮労働党創建70周年慶祝閱兵式と平壤市民パレードが金正恩第1書記の参席の下、平壤市の金日成広場で行われた。

2016年5月初めに朝鮮労働党第7回党大会を開催

2015年10月30日発『朝鮮中央通信』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は、同日付で決定書「朝鮮労働党等第7回大会を招集することについて」を発表した。これによれば、2016年5月初めに1980年10月の第6回大会以来35年ぶりに第7回大会が開催される。

未来科学者通りが完成し、入居式開催

2015年11月11日付『朝鮮新報』によれば、平壤市平川区域の大同江沿いに建設されていた53階建ての超高層住宅を初めとする住宅群である、未来科学者通りが1年という短期間の建設で完成した。同年11月3日に朝鮮労働党の崔泰福初期の参席の下で、住宅利用証書授与式が行われた。住居は平壤市内の教師、研究者などに提供されたとのことである。

清川江階段式発電所が竣工

2015年11月17日発『朝鮮中央通信』によれば、清川江階段式発電所が竣工し、熙川9号発電所で竣工式が行われた。

「新年の辞」

2016年1月1日、朝鮮中央テレビで、金正恩朝鮮労働党第1書記による「新年の辞」の放送があった。今年の新年の辞のスローガンは、「朝鮮労働党第7回大会が開かれる今年、強盛国家建設の最盛期を開こう！」である。

今年は、結果として1月6日に核実験を行ったが、核兵器や並進路線についての言及は全体として地味なトーンの新年の辞であった。党大会を控え、政治思想、軍事への言及が多く、昨年の評価については、党創建70周年を記念したことを念頭に「意義深い出来事と驚異的な成果で織り成された壮大な闘争の年、社会主義朝鮮の尊厳と威容を高く轟かせた勝利と栄光の年」であった評価している。主要な建設の成果として白頭山英雄青年発電所、清川江階段式発電所、科学技術殿堂、未来科学者通り、将泉野菜専門協同農場があげられている。経済建設については、技術革新の成果を紹介している。

2016年については、「朝鮮労働党第7回大会が開かれる意義深い年」と定義した上で、「すべての党員と人民軍将兵と人民は、党に対する燃えるような忠誠心と強い愛国的熱意を持って総決起し、世紀を先取りし、最後の勝利を目指してひた走りに走る朝鮮の気概と本領を誇示しなければなりません」としている。その具体的な施策として最初にあげられたのが経済であり、「経済強国の建設に総力を集中し、国の経済発展と人民生活の向上において新たな転換をもたらすべきです」としている。

経済については、まず「電力、石炭、金属工業と鉄道輸送部門」が柱とされ、特に電力と石炭生産の増強が重要視されている。次に、「人民生活の問題を多くの国事の中の第一国事」としているとして農産・畜産・水産部門における革新の重要性を強調している。次に軽工業部門、建設部門、山林復旧、科学技術振興とその産業への応用、「チュチェ思想を具現した朝鮮式经济管理方法を全面的に確立するための活動」が列挙されている。

次に、第7回党大会の開催を控え「全国が高揚した政治的雰囲気の中で沸き立つように政治活動、火線式宣伝・鼓舞活動を力強く繰り広げるべき」であるとしている。その後、国防力の強化に触れ、「訓練の実戦化、科学化、現代化」を重視すべきであるとしている。文化と道徳、スポーツ振興、集団主義の重視などに触れた後、社会主義建設においては「自強力第一主義」というスローガンで自力更生の重要性を説いている。南北関係、統一問題に関しては、「内外の反統一勢力の挑戦をはねのけ、自主統一の新時代を切り開こう！」という別途のスローガンが用意され、韓国の統一政策を「外部勢力と結託」として批判し、「祖国統一3大原則と6・15共同宣言、10・4宣言」の尊重が南北関係改善の最低ラインであることを示した。

北朝鮮が核実験—「水素爆弾」実験が成功と報道

2016年1月6日発『朝鮮中央通信』によれば、同日「朝鮮民主主義人民共和国政府声明」が発表され、「朝鮮労働党の戦略的決心に従い、主体105(2016年)1月6日10時主体朝鮮の最初の水素爆弾実験が成功裡に振興された」と発表した。同声明で核実験の根拠として「膨大な各種殺人兵器でわが共和国を虎視眈々と狙っている侵略の元凶である米国と対立しているわが共和国の正義の水素爆弾」という表現を使っている。核実験の強行を受け、これまで「戦略的忍耐」を通してきた米国・オバマ政権の対北朝鮮政策にどのような変化が見られるか注目される。

(ERINA調査研究部主任研究員 三村光弘)